

趣意書

蘭越町長

宮谷内 留雄殿

平成15年11月6日

私達が、希望を持って蘭越町に移住してから、早、4年の歳月が過ぎました。いろいろな経緯はさておき、わたくしどもが、蘭越町民としてすこしでも、存在価値のある生き方をしたく、現在の地で活動を始めています。先日、山本総務課長と会談し、私どもの考えの一端を述べさせて下さい。と、お願いを致しました。

さて、私は建築家、妻は画家ということで約30年活動をしてきましたが昨今の世の中をみて、私たちは最終的には「教育」という言葉に行き着きました。

教育の荒廃が叫ばれて久しい。

わたしの記憶では30年も前から事あるごとに言われているだろう。

学級崩壊、いじめ、不登校、自殺、毎年教育状況の改善が叫ばれ、有識者といわれる人たちがテレビ等マスコミに登場してワイドショウ的発想で主婦に媚びを売る。

そうこうしているうちに、大学生が変な宗教にはしり地下鉄サリン事件暴走族、ストーカー、援助交際、メル友事件、

そのうちに、学校の先生までが不登校、生徒と援助交際、どうしたんだろう。日本全体が変になっちゃった。

そんなこと言ってる場合じゃあない。

そんな時にまってきたとばかり正義ぶった、偽善のかたまりみたいな学校ができるはできるは。みなさん教育の荒廃を嘆きうちの学校は心のオアシスですよ。と引きこもりのこどもたちを誘っている。心配顔の親の顔色をうかがいながら。

こんな学校も、なんていうことはない、ただの銭もうけ。入学金うん十万、前期授業料百うん十万。ダンスを踊りながら、ギターを弾きながら卒業できるという。そんなばかな！そんな学校ならぼくが入りたい。

人の弱味につけこんでしこたま儲けている。我こそは教育者だと。

そんな折、新渡戸稲造の「思い出の遠友夜学校」（北海道新聞社刊）をみつゝ明治時代のはじめにこんな学校があったなんて。そして100年近くたった現代にも元教師、元生徒の人生行路におおきな影響をあたえているとは。

この、新渡戸稲造の精神が有島武朗らに引き継がれ50年にもおよぶ

歴史を知り、わたしが考えてなにかしらすっきりとした結論を出せないまま
でいた、「真の学校とは」とのおもいに光りがさしこみました。

まず、やってみよう。とおもい去年は「2級建築士受験講座」を開講した
しだいです。

状況は、100年たったいまでもほとんどかわっていません。

わたしの職業である建築業界では、大工さん、鉄筋屋さん、塗装屋さん
の多くが、中学校、若しくは高校を卒業し弟子入り技能を身に付けています。
そして、中堅になり、さらに上の資格をとりたいとおもっても、講座は札幌
仕事をしているため、日曜しか受講できない。そして受講料がべらぼうに
高い。これでは、一生懸命に働いて勉強したいと言う人ほど勉強ができない。
ひまがあり、「ちょっとカルチャーでも」というひとが受講できる。

ちょっとへんですよね。

この辺を変えなければ、地域の発展もなにもあったものではない。

識者は言うでしょう。堅実な事業計画はあるの？と。わたしにいわせると
それは事業計画ではなく、儲け計画でしょと。

遠友夜学校の元教師も元生徒もあれはなんだったんだろうと。「不思議な熱」
としかいいようがないと。

そんな「熱」を信じて、夢みて行きたいと思います。

そして、仲間をふやし、本格的に「バウハウス・ニセコ」に向かっていきたいと
思っています。

バウハウスとは、ドイツにあった美術工芸学校です。

建築家グロピウスが当時もそうであったように建築家、美術家が机上の空論を
ふりまわして有識者ぶっているのをみて、すべての芸術家は職人にまなばないけ
ならない、との精神で美術と工芸の融合された学校をつくったのです。

このバウハウスの運動は世界に広がりました。

文化=カルチャー（耕す）は地方から発信されるのです。

過去もそうでした。

蘭越・ニセコ・倶知安をみわたすとそれぞれ画家、陶芸、金工、ガラス、木彫、
大工、と何と職人がおおいことか。

バウハウスで学び、職人のもとで修行し、またバウハウスにもどり後継者を
育てる。そんな循環する社会を造り、文化を発信する。

そんななかからでない町造り、地域造りと机上で計画しても進まないでしょ
う。なぜか。それは「不思議な熱」がないからです。

尚、妻は画家として、個展等をとうして活動を始めています、今春からは、
絵画教室を開設し、仲間を増やしております。蘭越町で地域活動をするのは
もちろんですが、後志管内はもとより札幌等、活動家をつのり新しい
地域活動を続けていきたいと思っております。

今期の活動としては、「2級建築士受験講座」にくわえ、「一級建築士講座」

開設も考えております。店舗部分は、あまり広くはありませんがギャラリーとし
硝子の[]さん、竹籠の[]さんにも開放しみなさんの交流の場となっております
そんな、想いを実現させたく
その活動の場としての、現在の地の使用を継続させていただきたく
お願い申し上げます。
尚、近い将来的にはNPO法人としての申請をすべく準備中です。

副理事長 宮若内 昌雄様

平成15年 月 日

平成15年11月6日

代表

趣 意 書

私は建築家、妻は画家として、約30年間活動してきましたが、教育の荒廃が叫ばれる昨今、私たちは最終的に「教育」という言葉に行き着きました。新渡戸稲造の「思い出の遠友夜学校」にみた精神、不思議な熱は、有島武郎らに引き継がれて50年にも及びます。私は、そんな熱を信じて夢見ていきたいと思います。そして、仲間を増やし、本格的に「バウハウス・ニセコ」に向かって行きたいと願っております。

蘭越・ニセコ・倶知安をみわたすと、画家・陶芸・金工・ガラス・木彫・大工と職人が多数おります。バウハウスで学び、職人のもとで修行をし、またバウハウスにもどり後継者を育てる。そんな循環する社会を造り、文化を発信する。このような背景から、私は蘭越町民としてすこしでも存在価値のある生き方をしたく、広大な自然、緑豊かなこの地で、建築・工芸・絵画教室、個展開催等をとおして、仲間を増やし、人づくり、町づくり、さらには広域的な地域活動の拠点といったしたく現在の地の使用をお願い申し上げます。

蘭越町長 宮谷内 留雄様

平成15年 月 日

代表

蘭越町湯里木彫品製作組合

代表者